



日本病院会の診療情報管理士育成事業

診療情報管理士通信教育

一般社団法人 日本病院会
診療情報管理士教育委員会

〒102-8414
東京都千代田区三番町9-15 ホスピタルプラザビル
TEL:03-5215-6647 FAX:03-5215-6648
[URL <http://www.jha-e.com/>](http://www.jha-e.com/)



- 東京メトロ半蔵門線
「半蔵門」駅5番出口より徒歩約6分
- JR／東京メトロ有楽町線・南北線／都営新宿線
「市ヶ谷」駅より徒歩8分
- JR／東京メトロ丸ノ内線・南北線
「四ツ谷」駅より徒歩13分

2019年7月版



一般社団法人 日本病院会 診療情報管理士教育委員会

日本病院会と人材育成

診療情報管理士教育委員会では、昭和47年(1972年)以来診療情報管理に携わる人材の育成に尽力しています。

日本病院会とは

日本病院会は昭和23年(1948年)の医療法制定の精神を受け、「全病院の一致協力によって病院の向上発展と使命の遂行を図り、社会の福祉増進に寄与する」ことを目的に、昭和26年(1951年)6月、公・私病院長が相集い、日本病院協会の名称で設立されました。昭和51年(1976年)12月、現名称に変更して今日に至っています。

現在の会員数は2,484病院で、あらゆる病院主体で組織される日本の代表的な病院団体です。会員病院の総病床数は663,047床で、全国の病院における総病床数の約43%を占めています(2019年5月現在、全国総病床数2019年3月現在)。DPC対象全病院の7割超を日本病院会の会員病院が占めています。救命救急センター、地域医療支援病院、臨床研修病院についても8割越が日本病院会の会員病院です。

また国際病院連盟、アジア病院連盟の理事国として国内唯一の加盟団体です。

日本病院会がめざすこと

日本の全病院の協力のもと、医の倫理の確立と病院医療の質向上を目指して活動してきました。2012年4月に一般社団法人となってからは、会員病院の医療の質、経営の質向上に注力しています。

日本病院会の活動

日本病院会では、安心で安全な医療を提供するための政策の検討、健全な医療経営を確固たるものにするための診療報酬や医業税制などの検討、地域に根ざした質の高い医療を提供する様々な職種の医療人の育成、医療の国際化の対応、日本病院会からのお知らせと会員病院への有益な情報の発信など、委員会を組織して検討しています。

委員会組織表

- 医療政策に関わる事項
医療政策
医療の安全確保推進
病院精神科医療
災害医療対策
- 医療経営に関わる事項
中小病院
医業税制
- 診療報酬に関わる事項
診療報酬検討
- 人材育成に関わる事項
研修・健診事業
医療安全対策
感染症対策
病院総合力推進
QI
臨床研修
栄養管理
健診事業推進
- 通信教育事業
病院経営管理士教育
病院経営の質推進
- 専門医・病院総合医育成事業
専門医
病院総合医認定
病院総合医プログラム評価
病院総合医評価・更新
- 情報発信(見える化)に関わる事項
ICT推進
ニュース編集
雑誌編集
ホスピタルショウ
- 診療情報管理に関わる事項
診療情報管理士教育
- 医療の国際展開に関わる事項
国際

このうち診療情報管理士教育委員会が行う診療情報管理士通信教育は、既に40年以上の歴史を持ち、医療情報の管理に携わる人材の養成に貢献しています。

日本病院会の活動

- 医療政策に関わる事項
- 医業経営に関わる事項
- 診療報酬に関わる事項
- 人材育成に関わる事項
- 情報発信(見える化)に関わる事項
- 診療情報管理に関わる事項
- 医療の国際展開に関わる事項

3つの関係学会



日本診療情報管理学会：
診療情報の管理と活用に従事する診療情報管理士と、
医師、看護師、コメディカルなどチーム医療を担う
医療関係者が活躍する開かれた体制を構築しています。

診療情報管理士教育委員会構成メンバー

活動はそれぞれ、設置された委員会が運営しており、診療情報管理士通信教育は「診療情報管理士教育委員会」が行っています。

日本病院会担当副会長 島 弘志

診療情報管理士教育委員会 武田隆久*/吉住秀之/阿南 誠/林田賢史/住友正幸/須貝和則/岸 真司/遠藤弘良**/末永裕之**

基礎課程小委員会 吉住秀之*/壁谷悠介/岸 真司/佐野博之/仲田裕行/二階堂雄次

専門課程小委員会 阿南 誠*/赤澤宏平/中川原譲二/星 賢一/細川敬貴/山岸光子

(*委員長、**特別委員)

世界保健機関(WHO)との協力

膨大な診療情報を、保健や福祉行政の企画、人口問題研究、医学研究等に役立て、さらに国際比較、活用するためには、情報源となる死因や疾病の分類項目の内容基準をあらかじめ明確に定めておくことが重要です。日本病院会では、この基準となっているWHOが定める国際疾病分類(ICD)をはじめとして、国際統計分類の重要性を鑑み、厚生労働省の方針をふまえてICDの改善と普及に力を入れています。また、日本病院会の12年にわたる資金援助により、2019年にICD-11がWHA(世界保健総会)で承認されました。

診療情報管理士と通信教育

専門家による診療情報の活用が、明日の医療を支えます。

診療情報管理士

「診療情報管理士」とは、医療機関における患者の様々な診療情報を中心に人の健康(health)に関する情報を国際統計分類等に基づいて収集・管理し、データベースを抽出・加工・分析し、様々なニーズに適した情報を提供する専門職種です。

診療情報管理士は、日本病院会通信教育および日本病院会認定専門学校、大学にて統一されたカリキュラムで養成されており、四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会)および医療研修推進財団の共同で認定された資格です。診療情報管理士認定者は、2019年現在、3万7千人を超え、医療の安全管理や病院の経営管理に寄与する高い専門性とスキルを必要とする職種として活躍しています。

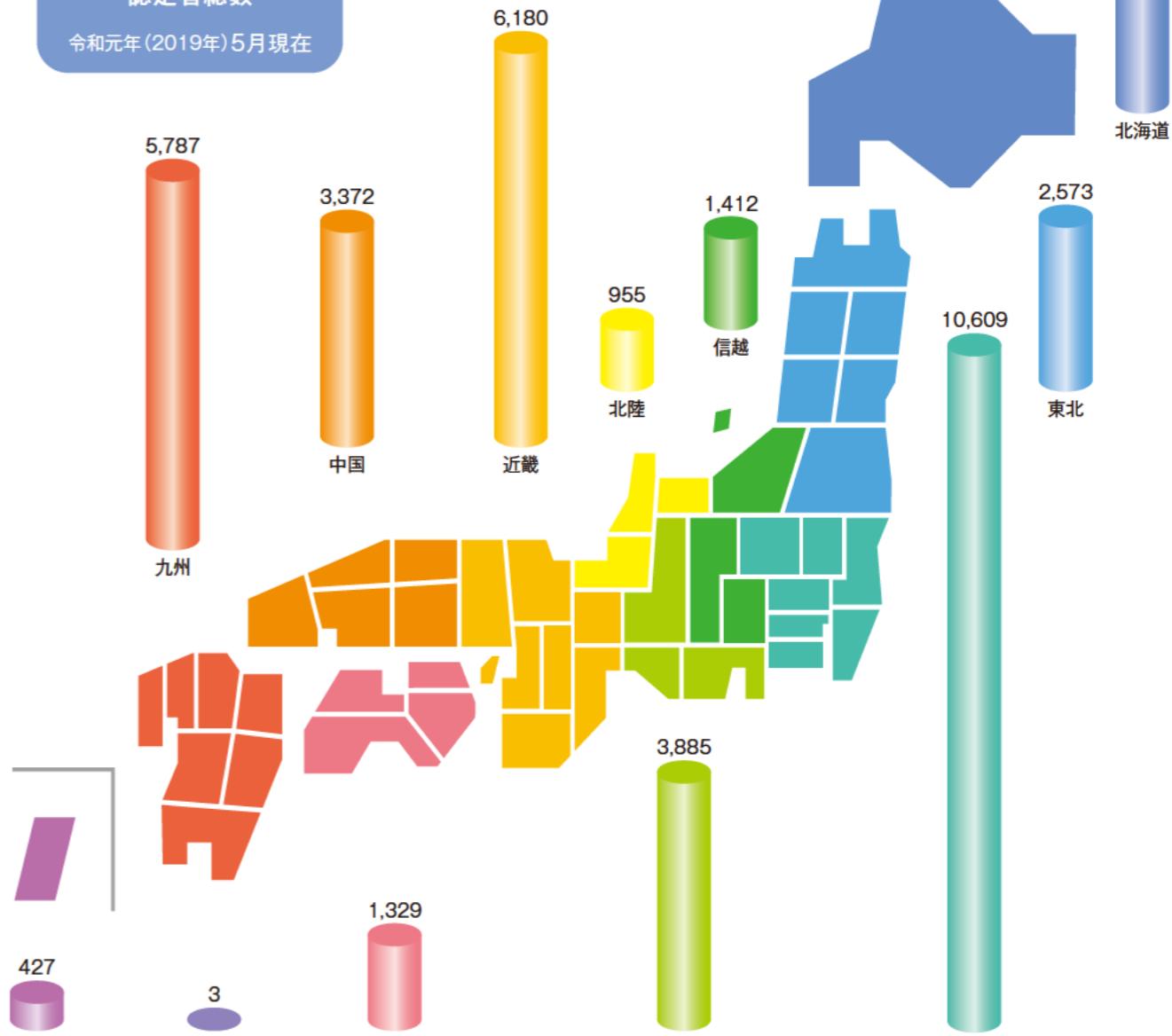
診療情報管理士は、諸外国ではHealth Information Manager(HIM)と呼ばれ、多くの国々でも育成が進んでいます。

わが国においても、医療機関におけるデータ管理と活用は医療の質の評価と適切な医療政策の構築のために必須のものとなっています。診療報酬上における診療録管理体制加算、病院機能評価などへの関与が求められ、診療報酬支払制度(DPC/PDPS(診断群分類別包括支払制度))、がん登録推進法、医療事故調査制度など診療情報管理士が関係する重要な制度も多く、今後のさらなる活躍が期待されています。

今後、国民の健康情報はさらに多くの情報管理が行われ活用も拡大することは必至であり、日本診療情報管理学会では診療情報管理士を対象にレベルアップした人材として診療情報管理士の生涯教育及び「診療情報管理士指導者」の認定を行っています。



地域別診療情報管理士
(診療録管理士含む)
認定者総数
令和元年(2019年)5月現在



認定者総数：37,503名

※診療情報管理士37,503名には診療録管理士から診療情報管理士への移行試験に合格した1,015名を除く。

ICDとは？

「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems(以下「ICD」と略)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈および比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関(WHO)が作成した分類です。我が国では、ICD-10に準拠した「疾病、傷害および死因分類」を作成し、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されています。また2019年には、ICD-11がWHAで承認されました。最新の知見が反映されたほか、生活機能評価や伝統医学などへの拡張、インターネットでの提供などの特徴があります。



診療情報管理士通信教育と認定

通信教育は昭和47年(1972年に 第1期を開講し、現在も診療情報 管理士の育成に精励しています。



認定証授与式・懇親会にて、合格を喜ぶ指定専門学校の先生と生徒たち

日本病院会では、診療情報管理士育成において大学、専門学校(3年制以上)を認定しており、該当する単位取得者は「診療情報管理士」認定試験を受験できます。平成31年4月末現在、指定大学は22大学、指定専門学校は55校で、教育カリキュラムは共通です。

日本病院会の診療情報管理士通信教育

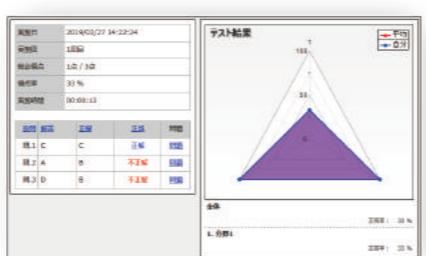
日本病院会で実施している診療情報管理士通信教育は、昭和47年(1972年)に診療録管理課程通信教育として開講し、平成8年(1996年)に診療情報管理課程通信教育、そして平成21年(2009年)には診療情報管理士通信教育と名称を変更し、現在95期(令和元年7月)を数えています。

日本病院会診療情報管理士教育委員会では、日本の医療の現状と将来の方向をふまえ、医療の高度化や医療業務の複雑化、EBM(根拠に基づいた医療)、医療機能評価、DPC(診断群分類を活用した包括評価)などの環境に相応しい診療情報管理士を育てるべく、独自の教育カリキュラムと教材で実践的な通信教育事業を実現しています。

教科書は、基礎・医学編、基礎・医学・医療用語編、専門2冊の計4冊および参考図書から構成されており、診療情報管理士の業務の基本となる国際疾病分類への理解を深めると同時に、医療情報・統計関連業務に関して、必須の知識と技術を理解、習得するための内容を織り込んでいます。2019年にはスマートフォンやパソコンなどで受講できるe-ラーニングが始まりました。これにより、いつでも、どこでも何度でも授業を受けることができるようになっています。

資格の取得

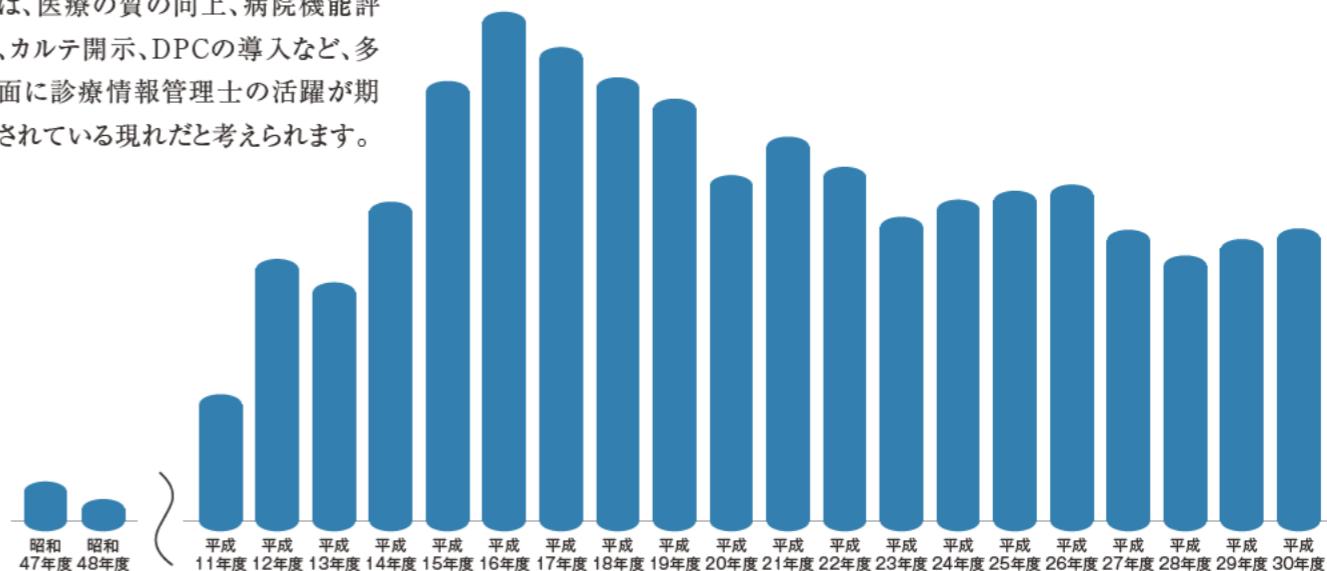
診療情報管理士通信教育全課程修了者は、日本病院会が実施する「診療情報管理士」認定試験を受験でき、合格者は四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会)および医療研修推進財团が認定する「診療情報管理士」として登録されます。



eラーニング画面

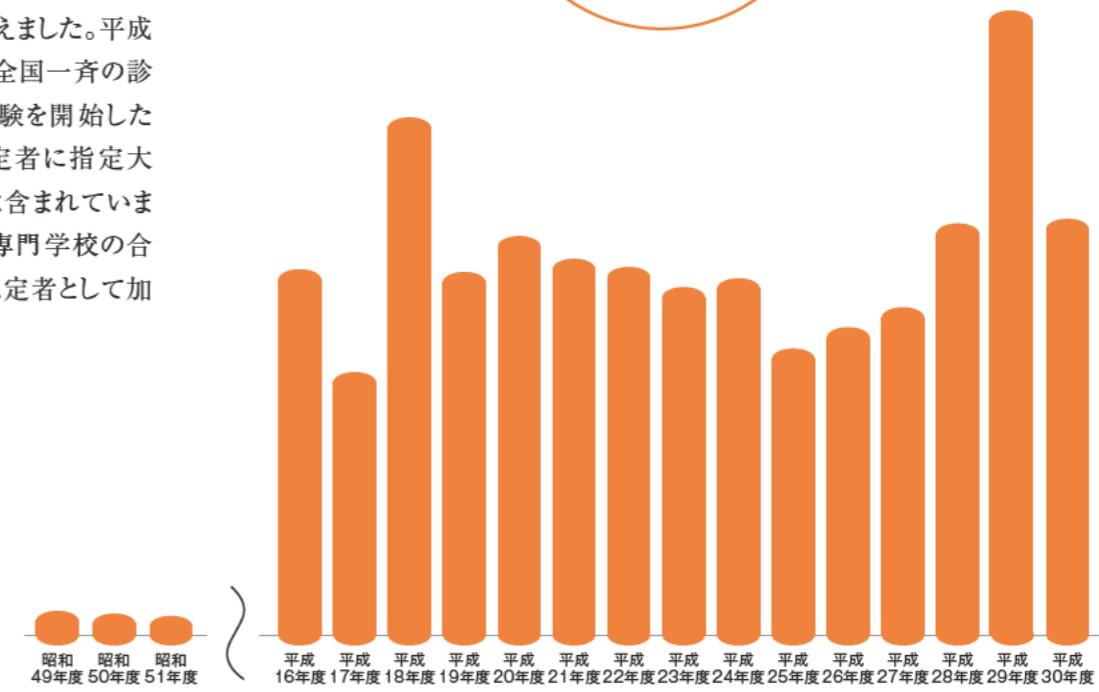
通信教育入講者数の推移 (編入生含む)

平成12年(2000年)度が前年に比して一挙に増加しているのは診療録管理体制加算の制度変化によるものだと考えられます。その後の急激な増加は、医療の質の向上、病院機能評価、カルテ開示、DPCの導入など、多方面に診療情報管理士の活躍が期待されている現れだと考えられます。



認定者数の推移

開講第1期生として159人が入学し、修業年限2年後には第1回の卒業生82人を送り出し日本病院会認定の診療録管理士として登録しました。第61回平成16年(2004年)11月には認定者数が1,000人を超みました。平成19年(2007年)度より、全国一斉の診療情報管理士認定試験を開始したため、平成19年度認定者に指定大学・指定専門学校生は含まれていません。指定大学・指定専門学校の合格者は、卒業年度に認定者として加算されます。



入講者総数
第1期生～第94期生
51,417名

認定者総数
第1回生～第80回生
37,503名

